主体的・対話的で深い学びへ

実践 アクティブ・ラーニング

英語

ペアワークを中心に音読や問題に取り組ませ、主体的に学びに向かう態度を養う

授業ハイライト

9:50 音読

●2年生の「コミュニケーション英語Ⅱ」で、レッスン7「硫黄島の戦い」の全8時間のうちの6時間目。本文のパート3の内容理解をペアワークで行った後、パート4の新出単語の確認と重要文法事項を説明した。（P.37に単元の指導計画を掲載）

毎回、授業の冒頭10分間は、副教材（約100語のエッセー）の音読を行う。本時の内容は「マーケティングについて」だった。CDで本文の音声を聴いた後、玉谷先生が重要単語の発音を確認し、再度、本文をリスニング。続いて全員が立ち、隣同士でペアを組んで本文を音読し、読み終えたペアから着席した。

千葉県立柏陵高校
玉谷純基 たまや・じゅんき
教職歴2年。同校に赴任して3年目。
英語科担当。5年前、学習塾講師から高校教師となる。
本採用となった同校に赴任後、
本格的にアクティブ・ラーニングを実践。

玉谷先生のアクティブ・ラーニング

生徒自身が問題解決に向けて能動的に取り組む授業を目指す

学ぶ生徒も指導する教師も、楽しみながら力をつけていく――。それが教師になって以来、玉谷純基先生が目指してきた授業のあり方だ。玉谷先生が千葉県立柏陵高校に赴任したのは3年前。それ以前は、学習塾の英語講師を3年間、高校の非常勤・臨時任用の講師を1年半務めた。

千葉県立柏陵高校

◎校訓は「良知・人の心と命を大切に」。「自らの人生を拓く『確かな学力』の育成」を重点目標に掲げ、自己実現を図るキャリア教育と開かれた学校づくりを推進。部活動も盛んで、フェンシング部は全国大会出場常連の強豪。
◎設立　1978（昭和53）年
◎形態　全日制／普通科／共学
◎生徒数　1学年約360人
◎2018年度入試合格実績（現役のみ）
私立大は、獨協大、神田外語大、東洋大、日本大、法政大、武蔵野大などに延べ123人が合格。
◎URL　http://saas01.netcommons.net/hakuryo/htdocs/

10:10 プリント学習②

自分で教科書を見ながらプリントに取り組む生徒もいれば、「ここには“hard”が入るんじゃない？」などと、友人と話し合いながら解く生徒もいた。玉谷先生は、解答の進み具合を見ながら、「答えは１つとは限らないよ」「お父さんがパイロットというところから考えて」などと、自分で解答できるようヒントを出した。

10:00 プリント学習①

座席を移動し、パート３のプリントに取り組んだ。プリントは、教科書付属の教材を使用。表面は単語の確認、裏面は本文理解のための穴埋めと True/False の問題だ。単語は前時に学習しており、本時は裏面の問題に取り組んだ。自分１人で考えてもよいし、隣同士で話し合って解答してもよいことにしている。この間、玉谷先生は机間巡視をし、生徒からの質問に答えた。

当時から意識しているのが、生徒が楽しみながら英語を学べる授業をつくることだ。

「私が高校時代に受けた英語の授業では、英語を使う場面があまりなく、英語を学ぶ理由を見いだせずにいた時期もありました。ですから、授業には、できるだけ英語を書いたり話したりする活動を取り入れ、生徒が『英語を使いたい』『英語をもっと知りたい』と思えるような授業を目指してきました」

そうした玉谷先生がアクティブ・ラーニング（以下、ＡＬ）の視点を取り入れた授業づくりを始めたのは、同校に赴任してからだ。教務部主催のアクティブ・ラーニング校内研修会や千葉県高等学校教育研究会英語部会で他校の実践事例に触れたり、校内の互見授業で参観したりして知見を深めていった。英語科に限らず、他教科から学ぶこともあるという。

玉谷先生が授業づくりで特に意識しているのが、授業中、生徒全員が顔を上げていること、そして、主体的に課題に取り組む姿勢を持たせることだ。

「本校の生徒は成績中位層が中心で、中学校までの学習では、とてもできたという成功体験があまりありません。また、高校入試での英語の得点率は高くなく、英語が苦手という生徒もいます。そうした生徒たちに必要なのは、やればできるといった自信と、英語ができるようになりたいと意欲を高めることだと思います。毎授業、板書時に洋楽を流すなどの工夫をしているのは、そうした理由からです。生徒が自分で考えて、自分の力ではできないと分かったら、友人と協力して問題を解決していく。生徒が問題解決に向けて能動的に動いていく授業にしようと、指導を工夫しています」

思考の活性化・深化への配慮

導入時に本文に関した映像を見せ、内容をイメージしやすくする

今回は、「硫黄島の戦い」をテーマとした単元で、全４パートを８時間で展開する。

１時間目は、導入として生徒に背景知識を与えるため、映像資料を視聴させた。「硫黄島の戦い」について、日本とアメリカそれぞれの視点から描いた２本の映画を、玉谷先生がダイジェスト版に編集したものだ。日米両方の立場から戦いを見ることで、これから読むテキストへの期待感を高め、さらに先入観なく向き合えるようにするのがねらいだ。その後は、テキストの流れに沿って、単語の意味、内容理解、文法についての、プリント学習を中心に取り組ませる。

プリント学習は、基本的にペアまたは個人で行う。玉谷先生は、３～４人のグループワークはほとんど行わないという。

「グループワークを行ったこともありますが、英語が苦手な生徒は自分の考えをなかなか言い出せず、英語が得意な生徒だけが学習を進めていく状況になりました。ペアであれば、相手が

10:17 プリントの答え合わせ

すべての生徒が問題を解き終えたことを確認してから、答え合わせを行った。１問ずつ、生徒を指名したが、答えを言いよどんだ場合は、「日本兵は何を作る必要があった？」「上官は兵隊に何を推奨した？」などのヒントを与え、自力で答えられるようにした。最後に、パート３の本文の音声をＣＤでリスニングした後、全員が起立し、ペアで本文の音読を行った。

10:28 文法のまとめ

パート３が終わると、パート４のプリントを配布。表面にある単語を確認し、答え合わせをした。続いて、パート４で学ぶ完了形の分詞構文について、玉谷先生が解説。残り時間でプリントの裏面の内容理解に取り組んだ。玉谷先生が板書をしている間は洋楽が流れ、リラックスした雰囲気で授業が終了した。

1人なので自分も発言せざるを得ません。本校の生徒にとっては、1対1が主体性を引き出す最適な方法だと考えています」

本単元の最後の授業では、テキストの感想に関する英作文を課す計画だ。

「英作文では、自分の考えを整理して表現できるよう、結論→理由1・理由2→結論という英語の定型文を指導してから書かせる予定です。本文の内容を自分の中にどのように落とし込んだのか、それを自分の言葉で語れているかがポイントになります。生徒が、日本とアメリカの両方の視点から戦争について考えることを期待しています」

ＡＩがテーマの次の単元では、グループでのプレゼンテーションを行う予定だ。ＡＩに仕事が奪われる社会の到来をどう受け止めるのか、ＡＩによって社会はどう変わるのかといったテーマで議論し、発表させるという内容だ。

場づくりへの配慮

一人ひとりが力を出せるよう 英語力が同じ生徒同士でペアを組む

ペアワークでは、英語力がほぼ同じ生徒同士でペアを組むようにしている。

「英語力に差があると、英語が苦手な生徒は得意な生徒に頼ってしまい、相手の答えを書き写すだけで終わってしまいます。『自分はできない』を頼る理由にさせないためにも、同じ英語力のレベルの生徒同士で課題に取り組むのがベストだと考えています」

そこで、生徒の座席は、直近の定期考査の得点を基に、最前列が最上位、次列が最下位、3列目が2番手、4列目以降はランダムと、あらかじめ決め、定期考査ごとに替えている。座席の移動は、冒頭10分間で行う副教材の音読終了後に行うようにしている。

「英語が苦手な生徒同士でペアを組みますが、答えが分からない場合は、座席の前後にいる英語が得意な生徒に質問するよう伝えています。また、成績上位層のペアでは、『なぜ、その答えになるのか』といった理由まで踏み込んだ議論に発展することもあります。英語力が同レベルの生徒同士で問題に取り組ませることで、生徒一人ひとりが力を発揮できるようにしています」

生徒たちは得点順に座ることを嫌がらず、むしろ「次の定期考査では2列目から抜け出したい」と、意欲を高める生徒が多いという。

成果と課題

英語の資格・検定試験に自ら挑戦する生徒たち

玉谷先生が1年次から担当している現2年生は、他学年に比べて英語に対する意識が高い生徒が多い。そして、英語の資格・検定試験に挑戦する生徒も増えており、スコアなどの結果も例年より高い。外国語学部を志望する生徒が現

単元の指導計画

【教科・科目】英語・コミュニケーション英語Ⅱ　**【分野・単元】**Lesson7　**【テーマ・作品】**「硫黄島の戦い」
【設定時数】全8時間の中の6時間目　**【単元目標】**硫黄島の戦いについて、日本とアメリカの両方の立場から考える。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	Lesson 7 導入	• 背景知識を深める。 【知識】	①映像資料による単元の導入	【主体的な学び】 • 映像における、描写の違いから、登場人物の心境の違いなどを感じ取らせる。	
2	Lesson 7 Part 1	• 仲間と協力して問題を解決できる。 【協働性】 ※2、3、4、5、7時間目も同様。	①新出単語の導入 ②重要文法事項の指導 ③問題演習	【主体的な学び】 • 単語の意味を理解し、声に出して読めるようになる。 • 問題を通して、「なぜ、その答えになるのか」を考えさせる。 【対話的な学び】 • ペアで協力して活動できているか。 【深い学び】 • 知識を深めた上で、各パートの要旨をまとめられるよう促す。 ※2、3、4、5、7時間目も同様。	• 単語の穴埋め
3	Lesson 7 Part 1＆2		①解答チェック ②ペアでの音読活動 ③新出単語の導入 ④重要文法事項の指導		• ペアでの音読活動 • 単語の穴埋め
4	Lesson 7 Part 2		①問題演習 ②解答チェック ③ペアでの音読活動		• ペアでの音読活動
5	Lesson 7 Part 3		①新出単語の導入 ②重要文法事項の指導 ③問題演習		• 単語の穴埋め
6	Lesson 7 Part 3＆4		①解答チェック ②ペアでの音読活動 ③新出単語の導入 ④重要文法事項の指導		• ペアでの音読活動 • 単語の穴埋め
7	Lesson 7 Part 4		①問題演習 ②解答チェック ③ペアでの音読活動		• ペアでの音読活動
8	Lesson 7 まとめ	• 自分の考えを表現できる。 【表現力】	① Story Reproduction ②音読リレー ③ Opinion Writing	【主体的な学び】 • 学んだことを踏まえて、自分の意見を記述するように指示をする。	• 英作文

*玉谷先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

時点で20人ほどいるのも、例年には見られなかった傾向だという。

今後は、英語学習に意欲的な生徒を対象に個別補習を実施し、生徒の希望進路の実現に向けた指導を強化したいと、玉谷先生は語る。

「大学での英語の授業は、英語でのディスカッションや英作文などが中心だと聞いています。そうした授業にも意欲的に取り組めるよう、3年次からプレゼンテーションやグループディスカッションなど、よりコミュニケーションを重視した実践的な授業を増やしていきたいと考えています」

生徒の声

秋山芽吹（めぶき）さん　ペアで音読したり問題を考えたりすると、自分とは違う読み方や考え方に触れることができ、とても勉強になっています。また、今回の単元では、事前にテキストに関する映画のダイジェストを見ていたので、本文を読んでいても、それぞれの場面が具体的にイメージしやすく、テキストの内容により深く入り込むことができました。

渡辺隼人（はやと）さん　玉谷先生の授業は、先生の説明を聴くだけでなく、ペアで話し合う時間があったり、長い板書の時も音楽をかけてくれたり、いろいろ工夫してくださるので、あっという間に時間が過ぎます。英語は必ず将来必要とされると思うので、一生懸命頑張って、英語の資格・検定試験にも積極的にチャレンジしたいと考えています。